

# 豪雨教訓「防災へ行動」



「ミカン園地の完全な復興にはまだ15年ほどかかる」と語る中島利昌さん—17日午前、松山市文京町

## 宇和島の被災農家 松山大生に講演

2018年7月に発生し

た西日本豪雨の被災者を招き、当時の被災状況や現状について知る講演会が17日、松山市文京町の松山大であった。経営学部の1年生60人らが聴講し、今なお復興のさなかにある被災地に思いをはせ、防災の重要

性を再認識した。

宇和島市吉田地域でミカン農家を営む中島利昌さん(63)がゲストスピーカーとして登壇。自宅が浸水し、懸命に育てたミカンの木が土砂とともに流された当時の状況を映像で振り返り、「私も見たくない映像。初

めて当事者になり、何から手を付けていいのか分からずうろたえた」と当時の心境を明かした。

10カ所の園地のうち、7カ所が被災し、収入も半減したという中島さん。元の収入に戻るには15年ほどを要すると語り、「復旧はできても復興には時間がかかる。災害が起きる前に、減災防災で何かできることはないか考え、可能なことから行動に移してほしい」と呼びかけた。

今回の講演会を起案した人文学部4年の桑名未来さん(21)は「近い将来、恐らく災害はやってくる。自分や家族を守るためにも、まずは被災地で何が起こっていたのかを知るきっかけになったらうれしい」と話していた。(増田有梨)